

令和5年9月期月次景況調査結果

この調査結果は、地区・業種を代表する県内組合の役職員の方から、毎月、業界の景気動向等に関する情報を収集・分析し、行政・関係機関に情報提供しています。

製造業を中心に総じて売上高は増加傾向にあり、全体の景況DI値は2か月連続で改善したものの、高止まりを続けるエネルギー・原材料価格により収益は好転していない。

また、多くの業種において、人材不足により受注や販売に対応できない状況があり、人材不足が売上げや収益の確保に深刻な影響をもたらしている。

さらに、コロナ特別融資の元金返済開始や、10月からのインボイス制度開始と最低賃金の大幅な引き上げを懸念する声も寄せられており、先行き不安感が拭えない。









山口県の主要指標DI値（令和5年9月末現在）









※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：10.0% 悪化：33.8% DI値：▲23.8% ポイント
売上高	(< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、増加：17.5% 減少：25.0% DI値：▲7.5% ポイント
収益状況	(< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)
	前年同月比は、好転：8.8% 悪化：35.0% DI値：▲26.2% ポイント

山口県の業種別DI値(業界の景況)（令和5年9月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲37.5	▲50.0	▲66.7	0.0	▲66.7	▲25.0	▲33.3	▲40.6
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製 造 業
0.0	▲37.5	▲20.0	0.0	▲36.4	28.6	0.0	▲12.5
							

全 体
▲23.8


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	和菓子離れの一環としてお彼岸のおはぎの需要が年々縮小している。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	雇用情勢が依然として厳しい。	パン・菓子製造業 下関市
	魚市場での原料魚の水揚げが例年よりも凄く少ない。会社維持コストの上昇では、特に人件費や電気料金、燃料費等の高騰が今後も続くと思われる。人手不足が深刻である。加工商品の転化と新商品開発が急がれ、研究機関や異業種との交流、特に若者の発想と行動力が必要とされている。	水産食料品製造業 長門市
	コロナが5類になり催事等が行われるようになり関連した商品を取り扱っている企業はそこそこ売上があった模様。円安により海外からの仕入れの値上がりが続く、原材料や添加物等の値上げも止まらず商品の単価に影響している。最低賃金の引上げ額が高く、中小企業にとっては人手不足も重なって大変厳しくなっていく一方である。まだ収まりを見せないコロナやインフルエンザにも、企業内で感染しないように気を付けていかないといけない。	水産食料品製造業 下関市
	9月に入り、敬老会等の行事が次々に復活したことや、好天に恵まれて地区のスポーツ大会等も開催されるようになり、売上が順調に伸びている。気候もようやく過ごしやすくなってきたが、これからイベントが続く、早朝から作業をすることが多くなるため、食品の管理には十分注意したい。東北の弁当屋で大きな食中毒の事故があっただけに、気を引き締めていきたい。	食料品製造業
	コロナ感染もほぼ収まり飲食店等も通常営業となり、売上の減少は軽微なものとなった。台風の複数発生による気象災害が懸念されている。地球温暖化に伴う気候変動の影響を受け米の作柄の品質及び収量がともに低下している。肥料、燃料など各種コストの大幅な増加により、製造原価が上昇し、事業活動がさらに苦しい状況となっている。各種生産資材の値上げが続いているなかで、取引先によっては、値上げをかたくなに拒否するところもあり、農業者には、原価割れの状況が続いている。豪雨災害だけでなく大型台風の襲来など、地球温暖化対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入等、水素循環型社会の実現に向けた政策の加速化が強く求められている。ロシアがウクライナに侵攻し、1年以上が経過したが、全く終息する気配も無く、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。中国からの輸入に頼っているリン酸の価格も上昇し、肥料価格が前年比150%アップという驚異的な結果となった。政府の原油価格の上昇に伴う損失補填も限界にきているようだが、とくに、ガソリン価格の対策費の継続と食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。インボイスへの対応が求められるが、併せて電子帳簿保存法への対応も必要となる。	精穀・製粉業

繊維工業	人材不足が慢性化している。技能職への育成も定着する人がいなくては無理である。	外衣・シャツ製造業
木材・木製品	組合員の平均売上額は、コロナ禍の令和4年9月と比べ25%の減少。(コロナによる影響が出始めた時期は、令和2年4月)建築工事が前年に比べ減少傾向、木材需要もそれに関連して減少している。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	9月は印刷事業の売上が大幅に減少した。飲食事業部に関しては横ばいだが、提供する内容を少しずつ変えて、今後の巻き返しを図る。	印刷業 山口市
	食料品や生活用品等の価格上昇は続いており、10月から最低賃金引上げが実施されるものの、国民生活は依然として厳しい状況である。印刷業界も、原材料価格は高止まりしたままで、厳しい経営環境に変わりはないが、既存生産工程、手法の見直しや仕入ルートの新たな開拓などにより対応をしている。イベント等の再開による印刷物の需要は全国的には回復しているが、受注の競争激化による価格競争により、思うような収益に結びついていない。印刷物自体の発注中止やWebへの移行など新しい動きも出てきている。	印刷業 下関市
窯業・土石製品	設計に反映される期間は6ヵ月後になり、その頃には、原材料、輸送費等が更に高騰し常に追い付かない期間が2年以上続いている。更に工事期間が6ヶ月以上かかる現場が多く、出荷時期には原価UPしており経営悪化に拍車を掛ける要因となる状況が続いている。	コンクリート製品製造業 柳井市
	出荷状況は前年比40%の減少。原材料の値上げ等にて値上げを検討中。	コンクリート製品製造業 防府市
	出荷量は、前月比96%、前年同月比88%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定しているがやや上昇している。	生コンクリート製造業
	最近では、墓じまいが多くなっているが、納骨堂へお骨を収める状況を見て考え直されて、改めて、家族が入るくらい(4・5名分のお骨が納められるくらい)の大きさのお墓を注文される方が多い。	石工品製造業
	売上は、前年同月比で、小売り・卸ともにやや減少している。	陶磁器・同関連 製品製造業
一般機器	9月中旬から、例年通り周南コンビナートの秋季定修工事期間に入った。各社繁忙となり人材不足に悩まされている。閑散期と繁忙期の差が大きいことが負担になっている企業も多い。	一般機械器具製造業 下松市
	業況に大きく変化はない。一部取引先で8月後半より受注数量が減少したことにより、当社への発注数が減少したが、概ね想定を受注量・収益状況であった。原材料の値上げは落ち着いてきたが、購入品の納期が不確実であり、受注量も多いため納期調整に苦労している。人手不足は解消せず現従業員の負担が大きくなっている。心配した冷房による電気料金は節電努力で昨年並みの金額に落ち着いたが、2~3年前の約2倍となっている。「燃料費調整額」は高いままである。発注元の定修工事が始まり増員している。工事量は前月より増加しているが外注に出しているため利益的には難しい状況である。	一般機械器具製造業 防府市

	<p>円安、ロシアのウクライナ侵攻に伴う世界情勢の不安定化によるロシア、中国とアメリカ、EU、日本との経済摩擦は先が見えない状況であり、資源高、資源不足もあり企業収益に大きな影響が出ている。中国の景気悪化に伴い、大手機械部品メーカーの発注が激減し、下請け関連企業に大きな影響があり、外国人技能実習生の帰国に伴う補充受け入れも延期されている。電気、ガス料金にとどまらず、物価のアップは中小企業にとって大きな負担だが、当面事業量は順調に確保している。しかし、サービス業で特に人材の確保が困難な状況である。外国人人材確保の面では、最低賃金はアップされたが、他国に比して低賃金、円安の影響は大きく、欧米、カナダ、台湾との人材確保競争は厳しいものがある。国内での競合も激しく都会の高賃金に対抗できず、地方においては募集しても人が集まりにくいだけでなく、高賃金を求めて転籍も多い状況が継続している。技能実習から特定技能に移行した地域間異動では、山口県は転入 214 人に対して転出 772 人となっている。(出入国管理庁、令和 4 年 12 月末現在) 企業努力は当然であるが、抜本的な対策を講じないと企業の存続が危ぶまれる。</p> <p>業況に大きな変化は見られない。</p> <p>特に大きな変化はない。</p>	<p>一般機械器具製造業 宇部市</p> <p>一般機械器具製造業 下関市</p>
輸送機器	<p>鉄道車両関係は海外（台湾・エジプト・米国等）からの受注があり順調に推移している。受注量は 2024 年度後半以降から減少となる見通しだが、2026 年度からの回復の兆しはある。原材料費や電気料等の水道光熱費の高騰による収益悪化は、続くものと思われる。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予定よりも大幅に受注量が減少してきており、引き続き今後の受注動向を注視したい。</p>	<p>鉄道車両・同部品製造業</p>
卸売業	<p>倉庫売上は順調であり入在庫量が増加している。特に海産物が好評で、売上を伸ばしている大きな要因である。自家発電（ソーラー）により、電気料金値上げに伴う出費を最小限に抑えることができしており、倉庫運営に寄与している。</p> <p>例年より水揚げ量が減少しており、苦戦をしている。</p> <p>売上原価は上昇しているが、原材料価格が上昇しており、収益の状況は、あまり好転しているように感じられない。</p>	<p>乾物卸売業</p> <p>生鮮・魚介卸売業</p> <p>各種商品卸売業</p>
小売業	<p>売上は少しずつ伸びている店舗と前年と変わらない店舗がある。段々と肌寒くなり、秋冬の化粧品に切り替わる時期で、クリスマスギフト商戦を意識した限定商品の予約活動も始まる時期である。販売実績によって納入個数が限られ個数が少ないが、売上アップにはタッチアップやエステなどプラスαを行わないと売上アップには繋がらない。消費者の 8 割は潤いを求める一方で、効果を実感しにくいと感じており、専門店としてはもう一度スキンケアの使用法や使用量の徹底を伝えていかないといけないと思う。</p>	<p>化粧品小売業</p>

	売上は8月よりも減少したが、前年同月比では同等である。雇用は廃業もあり減少している。インボイス制度は取引先に登録していない者もあり、どうしたものかと悩ましい。	機械器具小売業
	24日(日)に蚤の市が駅前広場で開かれ、全国からの出店者も多く、かなりの賑わいを見せた。こうしたイベントが集客につながったら商店街に活気が戻ってくるに違いない。	各種商品小売業 周南市
	売上状況は、前年同月比約13%増加。前年は台風のため2日間臨時休館しており本年は2営業日が増えたこと、更に原価上昇による売価の値上がりも反映されているとみられ、実質の売上の規模拡大には至っていない。高止まりを続ける原材料・仕入価格の高騰、電気代、ガス代のコスト増で、売上は増加しても収益確保ができていない状況。	各種商品小売業 萩市
	9月の供給高は、日曜日を店休日としたため前年比96.6%、来店者数90.9%。お彼岸を迎え、朝晩はようやく涼しくなった。これからは、おでんや鍋物の季節になるが、北海道の野菜が猛暑の影響で不作の様で、現在、野菜の入荷数が制限されている。中でも人参は、1週間に1日と厳しい状況。商品の値上げが続いている。商品の値上げが続いているが、来店者はあまり気にせず購入している。	各種商品小売業 下関市
商店街	残暑が長引く中で各店とも健闘したが、盆明けの飲食業は不振の時期で、小売業の多くはバーゲンの残務整理時期であり、秋シーズン商品の入荷のみが明るい話題である。実質的な売上高は大きく変わらないが、好景気かと思わせる店頭が見られる。生鮮野菜と穀物は、猛暑の影響で、出荷サイズに育たないままでシーズンを迎えたため、惨敗。米作物も夏の異常な気候で作柄は良くない。10月以降の物価上昇が懸念される。小売業や飲食料は接客業なので、領収書等のインボイス発行等で客と言いつ争ったりしたくないが、やり取りのシミュレーションが出来ていないので不安である。	岩国市
	異常な暑さで、青果市場の品物が例年の1/4~1/2の状態であり、価格が高騰している。落ち着くのは10月後半と思われる。各店舗とも人手不足が深刻で、配達員・販売員の不足が売上に大きく影響している。時間給を上げて募集しても集まらず、手の打ちようがない。	山口市
	今後もイベントが目白押しだが、どれ程の経済効果があるか、人出増加の影響に期待したい。	宇部市
	8月に続き、真夏日が多かった9月は、シニア層の来街者が増えなかった。食品関連は売上増となったが買回り品の売上は厳しかった。	萩市
	少しずつ人通りが回復している。毎月、中浜市場で開催される「中浜マルシェ」では、回を追うごとに集客人数も増えてきている。10月早々にプレミアム商品券販売予定があり、問い合わせも多く、昨年同様長い行列ができるのではと期待している。10月後半には時代まつりが控えており、賑わいを期待したい。	下関市
サービス業	比較的、天候にも恵まれ例年通りの売上で推移した。	美容業

	売上は徐々に伸びる傾向にあるが、物価高騰などで不安である。	理容業
	令和5年8月の中国地方新車新規登録台数は、対前年同月比22.5%増で、8ヶ月連続でプラスとなり、全国計も19.2%増と、8ヶ月連続でプラスの状況と回復傾向が顕著な状況。一方、OBD（車載式故障診断装置）検査の「プレ運用」が10月に始まるが、2024年10月の本格運用に向けあと1年。整備事業者は、本番へのスムーズな移行を目指すことが重要だが、設備面や整備士の習熟、インターネットの環境、特に無線通信のWi-Fiの構築、検査時に使用するパソコン、タブレット端末、検査用スキャンツール（外部故障診断機）、VCI（ビークル・コネクト・インターフェース）も準備が必要となる。このような状況から、車検料金の見直しも避けて通れない可能性が大きい。OBD検査対象となる車について、今後別に「OBD検査料」設定検討も考えないといけないかもしれない。スキャンツール導入には国は補助金を設定しているが、例年早い段階で終了する。電気代の高騰や整備士をはじめとするスタッフの待遇改善、OBD検査の本格運用もその一つの要因にはなるが、値上げはユーザーにとって負担増になることに変わりはない。理解を得るための取り組みや告知、説明も今後重要になると思われる。	自動車整備業
	値上げで売上高は少し上がったが、電力の値上げ率が異常で会費の値上げをしても追いつかない。電力価格の地域差をなくす検討を願っている。入会動向にも県内で地域差があるが、電力価格の上昇等で家計が圧迫されているのか、入会動向が鈍い。	スポーツ・健康教授業
	売上高は前年比増加の事業所も多いが、生産コスト（人件費、水道光熱費）を差し引くと利益は前年よりも低い場合も少なくない。例年8月9月は厳しい月だが、この経費高がより各事業所の経営を圧迫していると考えられる。	普通洗濯業
	前年同月比で、売上は116%、宿泊人員は115.1%と前年をクリアした。前年10月から1宿が組合員となり宿泊数が増加したため、今年度9月までは単純比較が出来ないが、回復基調であることは間違いない。	旅館業 山口市
	売上高は前年比変わらず。特別なイベントは無い。重油等は引き続き高値が継続しており、収益に大きく影響している。コロナ禍で猶予されていた税金、社会保険等の支払いが再開となり、資金繰りを圧迫している。年度末に向けて厳しい状況が続く。	旅館業 長門市
	人件費や光熱費、仕入れ価格の高騰で、価格に転嫁しても追いつかない。キャッシュレスが進み、各種手数料が差し引かれ、実質現金が不足している状況。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請148件(当支部129件)、前年同月111件(同103件)。太陽光発電への申請17件(前年18件)、オール電化申請73件(前年52件)。LED街路灯への切り替え・新設申36件(前年14件)であった。	電気工事業
	最近までは、やや回復傾向にあると感じていたが、従業員を遊ばせるような同業者が複数発生している。総合建設会社は建材の値上がりについては対応せざるを得ないが、専門工事業者の労務費に対する反応は鈍	左官工事業

	い。	
	官公需は順調な発注があり仕事はあるが、人手不足で受注を諦めざるを得ないケースも見られた。民需では家屋新築等の配管をするが、建築資材の値上げの話があり、建築を急ぐものもある。70～80代の従業員が働いている状況は変わらず、若くても60代である。若い世代から就職を敬遠されている業界だが、ライフラインを守る技術の引継ぎは欠くことが出来ないのでは、何か方法はないものだろうか。	管工事業
	上関町が、中国電力の中間施設建設の調査の実施を受諾したことから、周辺自治体の動向が、マスコミに報道されている。また、関東大震災から丁度100年を迎えたことで、改めて地震への警鐘が叫ばれている。円安が進み、ガソリンを始めとした原材料費の高騰、品薄、諸物価の値上げ等で、景気は改善されていない。新型コロナウイルスの更なる変異による感染も拡大している。コロナ禍での制度融資の返済も始まり、事業経営の改善は当分困難に思われる。	一般土木工事業 柳井市
	9月の受注高は、対前年同月比170.1%。今年度の累計では、対前年比84.4%。	一般土木工事業 萩市
	長門地区の公共工事の発注高は、8月が例年の7割弱に落ち込んでいたが、9月で持ち直し、上半期の発注高は例年並みとなった。	一般土木工事業 長門市
	各社忙しい状況だが、地域によって見積件数に差が生じている模様。電気、ガス、消耗品等の値上げで加工単価が圧迫されている中、ガソリン価格の高騰により輸送費の単価も上昇しており、価格転嫁をアナウンスしても取引先によっては厳しい指値がある。適正な価格と労働条件を踏まえた製作工程等を取引先と交渉する必要がある。	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	輸送は低調な1ヶ月であった。特に輸出関係の減少が目立ち、国内輸送も減少している。運転手の高齢化が少なからず影響している。燃料はプラマイゼロで、変化なく現状維持。	一般貨物自動車運送業 下松市
	自動車関連の組合輸送取扱高は前年比30%の増加となった。部品調達については大分改善された。燃料価格は原油価格が高水準で推移しており、更に上がる気配がある。	一般貨物自動車運送業 防府市
	燃料高騰については、補助金も延長となり少し落ち着きを見せてきたが、依然として収益に対する影響は大きい。倉庫保管案件は安定している。運送案件が少しずつ増えてきている模様。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比+42.4%（令和5年8月1日～令和5年9月20日分）だった。8月1日～31日分は+61.3%、9月1日～20日分は+18.9%。前々年度比では、それぞれ+99.8%、+83.8%、+134.2%になった。かなり回復しているように見えるが、前年、前々年がコロナ禍で大幅に減少したためであり、令和元年度8月分比（コロナ禍以前）では▲17.3%。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。8月分については、周南+75.7%、下松+56.1%、光+74.0%、防府市地区が+12.6%で、組合員の全域では+64.8%、地区外（員外）+37.0%、合計+61.3%（+6,171千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上がり（前月417.5\$/トンが今月510.0\$/トン）、フレート（輸送）コストも上がり（前月10,700円/トンが今月11,300円/トン）。為替も円安（前月142.30円/\$が今月145.84円/\$）となり、燃料単価は前月より+12.2%上がったが、前年9月比は▲7.8%と下がっているが、急激に高騰しているように思われる。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的危機的に不足している。各タクシー会社とも、利用客の拡販よりも、乗務員確保に苦心している。8月1日から、県内のタクシー運賃が約10%改定になった。運行車両数が不足しているため、運賃改定による需要減少は、あまり見られない。乗務員、稼働車両が増加して、需要供給のバランスが改善することが期待される。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>対前年比の取扱高は、若干減少傾向である。</p>	<p>港湾運送業</p>
<p>その他</p>	<p>介護保険報酬は国で定められた報酬金額のままなので上がるわけではなく、原油や物価高騰の影響で、光熱費や食費等も値上がりしており非常に厳しい状況が続いている。加えて10月から最低賃金が上がるため、介護業界では収入は変わらずとも支出が増えることになると思われる。</p>	<p>介護事業</p>